

文章理解 2025 年度松商短期大学部 学校推薦型選抜（特待生） 出題の意図

第1問は長谷川權の論説文『和の思想』から、第2問は星新一のショートショート『信念』から出題した。

第1問は、欧米のフラワーアレンジメントと日本の生け花を対比させ、日本文化が「間」を重んじる文化であることを指摘した文章である。本学では、受験生が身近な文化事象を通じて論理的な思考を展開できるかを確認するため、内容把握を問う空欄補充問題を中心に構成した。出題文の一部は教科書等にも採用されており、受験生には文脈を正しく読み解き、記述の背後にある日本的な空間意識を的確に捉えることが期待される。

第2問の小説『信念』は、「世の中の成功者はすべて悪だ」という偏った信念を持つ主人公が、皮肉にもその信念ゆえに模範的な社員として出世していくという物語である。出題にあたっては、逆説的なストーリー展開を正確に把握する読解力を試すことを念頭に、文脈理解を問う空欄補充や、脱文挿入、傍線部の心情把握などをバランスよく配した。

全体を通して、受験生がこれまで培ってきた基礎的な国語力が、奇問や難問に惑わされることなく正当に得点へ結びつくよう意図したものである。

「松本大学松商短期大学部入学後からの将来設計」「私の家族」という二つのテーマから一つを選び論述するという課題を課した。「将来設計」については、自らの将来の目標や希望を明確にした上で、それに至るまでのプロセスを具体的に描き出す力を問う狙いがある。また、「家族」については、家族の重要性や役割、絆、価値観、さらには社会における家族の在り方等について深く考察し、具体的な事例を交えて論じる力を評価する意図がある。どちらのテーマも受験生自身と密接に関わるものであるが、単なる感想に留まるのではなく、客観的な視点や具体例を盛り込み、論理的かつ説得力をもって自らの考えを表現できているかを評価の主眼としている。

## 小論文 2025 年度松商短期大学部 一般選抜 B 出題の意図

課題文を読んでこれまでの学びを振り返り、これからの学びについて抱負を述べるという課題を課した。AI の発達によって、私たちが当たり前だと思っていた「学び」や「教育」の前提が、大きく揺さぶられている。これからの時代、学びと仕事は切っても切れないものとなり、仕事の成否は新しい学びによって決定づけられる。こうした課題文の内容をふまえ、変化の激しい中だからこそ、「何が変わり、何が変わらないか」を見通し、自分の学びの姿勢を確立する必要がある。何をどのように学んでいこうと思っているのか、しっかりとした根拠をもって自らの学びに対する抱負を述べることが求められている。